

令和7年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）		
<p>「究理 尚志 敬人」の校訓と「努力と友情」の西高精神を教育の柱に据え、めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人を育てる。</p> <p>「究理」真理を求め勉学に努める 「尚志」高い理想を抱きその実現に努める 「敬人」人を敬愛し誠実に生きる</p>	<p>(1) 「総合的な探究の時間」では生徒の主体性やSDGsの視点で提言できる力を育てる実践を行い、一定の成果が見られた。舞鶴市や市内企業・高等教育機関等との連携を進めることで活動を充実させ、生徒が地域の一員としての自覚を深めることができた。公開授業や授業アンケートを実施し、評価についての分析などに取り組み、組織的に授業改善に係る研究を進めることができた。今後はさらに外部機関との連携を進め、主体的、対話的で深い学びをさらに充実させていく。「地域に開かれた学校づくり」をさらに推進するための取組を進め、本校の魅力を伝えて中学生から選ばれる学校づくりを行う。</p> <p>(2) 進路指導部と学年部の連携を深め、各生徒の実態に応じた適切な支援について共通認識を図ることができた。面接や小論文、志望理由書の作成などに対して、教職員全員で組織的に指導したことで、希望進路に応じた丁寧な指導を進めることができた。また、従来、一部の教員への負担が偏りが解消された。難関大学の合格者が増加するなど、生徒や保護者等からの期待に応えることができた。今後も、進路指導に必要な情報や手法を共有し、1年次では学力の定着と文理選択、2年次では具体的な希望進路を確定させることを大切にしていきたい。また、学校推薦型選抜・総合型選抜においては、総合的な探究の時間の内容と進路希望とリンクさせてテーマ設定をするなど進路実現につなげたい。</p> <p>(3) 部活動加入率は9割を超えている。施設設備に恵まれない中であっても、地道に努力を重ねる生徒と教職員や外部指導者による指導により、全国大会や近畿大会に出場した生徒もいた。今後も、学業と部活動の両立のための支援を継続していく。また、社会性等を身につけるために生徒会活動、学校行事、ボランティア活動などにも積極的に取り組んでいく。</p> <p>(4) 生徒会を中心に学校行事の計画を進め、ポストコロナの新たな形で実施することができた。保健部と学年部との連携により、スクール・カウンセラーやまなび・生活アドバイザーとの共通理解のもとで生徒の支援を積極的に進めることができた。挨拶の励行、ボランティア活動の活性化、人権意識の向上、学校生活になじめない生徒への手立てやいじめ・体罰の防止には今後も重点的に取り組む必要がある。</p> <p>(5) 地域社会に貢献し、その期待に応える学校づくりを進めている。ホームページ、西高だより、西高理探だより、新聞広報を通して、中学生や地域の方に本校の教育活動の成果がよくわかるよう情報発信を行った。さらに「地域に開かれた学校づくり」を充実していく必要がある。スマートスクール推進部と各教科の連携により、校内業務のDX化を進め、授業支援や事例共有を行い、ICTを活用した授業研究を進めることができた。さらに校内全体で研修を進めながら情報モラルに関して意識を高めていく。</p>	<p>スクールミッション「理数探究科・普通科を設置する高校として、地域連携や高大連携による探究活動、学習と部活動の両立を充実させることにより、高い学力を身に付け、知・徳・体の調和のとれた人間の形成を目指し、将来の科学技術分野を担う人材を育成する。」に応えるため、以下のことに取り組む。</p> <p>●「努力と友情」の精神に則り、自らを律し他者を思いやる気持ちと自分を大切にすることを醸成する（次のような力を育む）。</p> <p>【理数探究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立大学の理系学部への進学に必要な幅広い学力と探究心 ・科学技術分野での活躍に必要な科学的に探究する力、情報を活用する力、共創する力 ・科学、科学技術の進展が及ぼす影響を社会的、倫理的な側面から考える力 <p>【普通科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四年制大学等への進学に必要な幅広い学力 ・自分の将来を設計し、その実現のために必要な自己管理能力、自己分析力 ・地元舞鶴市など京都府北部地域の発展に貢献する高い意識 <p>●多様性を理解し、他者と協働して課題解決に向かう姿勢を養う。</p> <p>【理数探究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの理数系科目、学校設定科目により系統的な学習を進め、生徒の個性を伸長する。 ・探究のサイクルを通して科学的に探究する力を養う。 ・最先端の科学、科学技術に触れることで、広い視野とチャレンジ精神を養う。 <p>【普通科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業や習熟度別授業を取り入れ、基礎基本を大切にすること。 ・文系特進クラスや理系クラスを設置し、きめ細やかな進路指導を行う。 ・地元企業や団体と連携した探究活動を通じて、課題解決能力を養う。 <p>●勉学だけでなく、部活動、生徒会活動にも励み、希望進路の実現に向けて努力する生徒が志願する学校を目指す。</p> <p>【理数探究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学、理科、探究活動に高い興味・関心を持ち、主体的に学ぶことができる生徒 ・将来、リーダーとして国内外で活躍したいと考えている生徒 <p>【普通科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標に向かって自らを高めることができる生徒 ・地方創生に関心があり、舞鶴市と連携した活動に取り組む生徒 		
評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図る。	全教職員が互いに教え合いながら切磋琢磨し、日常的に自己の教科指導力、生徒指導力、業務遂行力を向上させるなど、自立的な人材育成を図るための職場環境作りと研修の場を充実させる。センター研修などの自主的研修受講者が60%以上になるよう、研修の意義を周知し適切な講座受講を推奨する。 分掌部長・教科主任を核に、本校の課題に対する共通理解を深め、新たな提言や知恵を結集させて学校運営・教育活動の一層の活性化を図る。	C	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部長会議を定期的に開催し、校内の課題について共通理解を図り、また普段から情報共有ツールを利用して職員間の共通理解も図ることができた。 ・生徒の学力向上のための取組を推進し、探究活動を活性化することで進路希望実現に向けての取組を充実させることができた。年度末アンケートにおいて、生徒の満足度は93%であった。 ・授業におけるICT活用について研究授業等を通して効果的な利用を考えることができた。 ・近隣小中学校との連携を図り、本校を志望する中学生に向けての学校説明会を充実させ、複数回の個別説明会を設けて本校の教育活動について理解を深めていただく機会とすることができた。 ・生徒の日頃の活動を頻繁に発信したり、生徒が実際に地域へかけて活動することで、地域や保護者へ向けて生き生きとした生徒の様子を広く周知することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業の工夫を研究し、さらに生徒の学力向上につながるよう研修を推進する。 ・中学生から選ばれる学校になるため、発信の頻度や発信内容を検討し、さらに在校生の満足度をあげる。 ・保護者アンケートでは「教育活動が見えやすい」の項目が67%であったため、さらに保護者や地域への情報発信に努める。 ・保護者との連携を密にし、生徒・保護者から信頼される学校となるよう一層の努力を続ける。
	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	生徒には、一段高い目標を持たせ、自己の変容を実感できるよう指導を行う。そのために、主体的・対話的で深い学びや、探究活動を推進し、学力の向上・進路希望の実現・特別活動の充実を図ることで、生徒の生活の自立と学習の自立を促す。年度末の学校評価アンケートにおいて、生徒の満足度90%を目指し各教育活動に取り組む。 また主権者としての自覚を促すため教科横断的に主権者教育を推進する。地域や高等教育機関との連携をさらに進め、生徒が地域の一員としての意識を持ち自己有用感を高める機会を創造する。 ICTを活用した授業を工夫し効果的な学力向上を目指して研修を推進する。	A	
	学校の取り巻く状況を見据えた学校改革を図る。	学校説明会の内容の充実と小・中学校等地域との連携の強化を進める、中学生や保護者から選ばれる魅力ある学校づくりを行う。 個別相談会を複数回設け、丁寧な説明を通して中学生や保護者からの学校理解を深めてもらう機会とする。 本校の教育内容・実践等に関して、ホームページ、西高だより、新聞を使って情報発信し「地域に開かれた学校づくり」を推進する。	A	
	学校を取り巻く危機に対して万全の対策を図る。	学校の安全を様々な危機から守るための校内体制を作るとともに、京都府教育委員会や関係機関と密な連携を図る。保護者への連絡をスピーディに行う。年度末の学校評価アンケート（保護者等）において、「教育活動が見えやすい」の項目が90%以上になるよう保護者等へ日々の活動を広報していく。	B	

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題
教務部	校務運営	基礎学力充実に向けた取組	学習環境の整備に努め、時間割変更等にきめ細かく対応し、授業を大切にしている学校を目指す。また、個に応じた学習を支援するため、スタディサプリ到達度テストの連動課題配信を年間10回行い、生徒の取組率が50%以上となるよう、学校全体での活用を促していく。	B	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間を2回実施できた。また、中学生・在校生保護者等、中学校教員などへの公開日も設定し、校外からの視点を取り入れる機会にできた。アンケートフォームを利用した意見集約によって迅速なフィードバックが可能となった。 授業アンケートでは教員の授業方法に関する項目では概ね3.5点以上となっており、生徒の期待に応える授業を展開できている。特にICT機器の適切な活用に関する項目では3.9点となっている。 5段階評定と観点別評価の関係性に関する分析資料を校内で提示し、新学習指導要領における評価に関する基本理念の共有に資することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> スタディサプリ到達度テスト連動課題は予定通りの回数を配信できたが、取組率は全体で15%程度であった。1年生1学期の取組率は44%に達したので、継続させる方策を検討する必要がある。 教員の授業・校務におけるICT活用は進んできているが、生徒自身がICT機器を効果的に活用する事例に関しても、より積極的に発信し校内での情報共有を図りたい。
		教科指導力向上	公開授業週間を年間2回実施し、他の教員の授業参観を通じて、お互いの指導力の向上を図る。また、授業アンケートを年間2回実施し、結果をフィードバックして授業改善を図る。	A		
		ICT機器活用能力向上	生徒に対する授業アンケートにおいて、ICT機器の適切な活用に関する項目が3.8点以上（4点満点）を維持できるよう、タブレット端末などのICT機器を生徒・教員双方が活用できる授業を増やしていく。また、公開授業週間以外でも参観しやすい環境を作り、実践例を全体に共有していく。	A		
		主体的に学ぶための評価方法の工夫	主体的な学びにつながる評価方法について検討するとともに、指導と評価の一体化を目指すための研修を行い、教職員へ発信していく。	B		
生徒指導部	生徒指導	いじめ事象の速やかな対応	生徒観察、生徒への声掛け、個人面談等の情報を教職員でしっかり共有しチームで対応していじめの未然防止に努める。「いじめ」の特別指導0件。	A	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員で情報を共有し、きめ細かな生徒対応をしていただいたおかげで「いじめ」の特別指導の件数は0件であった。 自転車未施錠で指導した人数1年46/82名、2年32/90名、3年37/83名。うち3回以上繰り返し指導したのが1年26名、2年7名、3年7名であった。 部活動加入率は92.2%であった。他校と比較しても高い加入率であったが、目標には達していない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いじめ」事象に関しては、引き続き教職員で情報共有しながらチームで対応していきたい。 自転車施錠については、指導の仕方を工夫していく必要がある。貴重品の管理と合わせて、防犯の意識を高めていきたい。 部活動加入率が目標値に届かなかった。部活動加入促進の取り組みを継続していく。
	安心・安全	安心・安全な学校づくり	自転車盗難防止のため自転車の鍵かけ運動を実施する。未施錠の指導件数30件以下。	C		
	特別活動	部活動の活性化	新入生歓迎行事での部活動紹介等を活用して部活動の一層の活性化を図るとともに、学習との両立を目指す。部活動加入率95%以上。	B		
進路指導部	希望進路の実現	教育相談的機能の強化	進路検討会を年間3回以上実施し、生徒の状況に応じて、組織的に進路指導を行う。	A	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3学年部と進路検討会を3回実施し、各生徒の実態に応じて適切な支援の手立てについて共通認識を図れた。また、職員会議での模試分析の機会を通じて、学力実態の把握や指導方針の共有を図れた。 大学教員や社会人など学校外の優れた人材を有効に活用し、分野別ガイダンス、模擬授業、学校説明会などを実施することで、生徒の進路探究活動を促すことができた。 本校ホームページに進路指導やキャリア教育に係る記事を15回掲載できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職、公務員希望者に対して外部講師を活用しながら、対策講座を計画的に実施しているが、内定率100%は達成できなかった。 校内の全教職員で協力して推薦入試対策指導を行っているが、国公立大学推薦入試合格率6割以上を達成できなかった。推薦入試希望者が増加傾向にあることをふまえ、校外の人的資材やICTツールの活用が課題である。
		各種進路ガイダンスの充実	各種ガイダンスを充実させ、生徒の内発的動機づけを促し、進路希望調査での進路未定回答者数を昨年度より減少させる。	A		
		面接・小論文対策指導の充実	校内外の人的資材を有効に活用し、丁寧な推薦入試対策指導を行い、国公立大学推薦入試合格率6割以上を目指す。	B		
		「社会人としての自覚」の醸成	就職希望者への丁寧な職業紹介を行うとともに、労働法規に係る学習、社会人マナー実習などの内定後指導を実施し、内定率100%を目指す。	B		
	信頼される学校づくり	各種情報の適切な発信	ホームページの進路関係の内容を年間15回以上更新することを目標にし、保護者・地域のニーズを意識した情報発信を行う。	A	A	
保健部	心身の健康管理	配慮を要する生徒や心身の健康問題を早期発見及び対応できるような支援体制作り	気になる生徒について学年部や教科担当者と連携し共通理解を図る。特にケース会議を適時、迅速に行うことにより、初期対応に遅れが生じないようにする。	B	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議を9回（16名）・ケース会議を15回（22名）開き、スクールカウンセラーやSSWとの共通理解のもとで、合理的な配慮を学年部および教務部・教科担当などと連携して行った。また、保健部としてプレコンセプション教育・摂食障害・学校危機対応（ASUKAモデル）などの研修には積極的に参加した。 熱中症対策を、Teamsやほけんだより、部長講話などで徹底して行ったので、深刻な熱中症事例はなかった。また、教職員対象救急救命講習を実践訓練形式で実施し、「第1発見者カード」の配布・啓発などに貢献した。講習会の参加者は38名であった。 保健委員会では、ブルーシードプロジェクトというSDGsに関わる取組を継続して行い、厚生委員会では防災グッズについての広報活動を行った。また、3学期には保健委員・厚生委員合同でAEDハートフルシートプロジェクトに取り組んだ。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の様々な事例に対して、初期対応および生徒の環境および状況の変化に注視する。 緊急時の対応に関して、本校での事例を通して重要事項を再確認しておく必要がある。
			スクールカウンセラーや専門機関との連携を図り、支援の方向性において100%の共通理解のもと支援を行う。	A		
			要配慮生徒に関わる教職員間の情報共有100%を目指す。	B		
		熱中症対策	教職員や生徒への啓発・広報を通じて、予防に努め、深刻な熱中症事例0件を目指す。	A		
		教職員研修等	救急救命講習・特別支援に関する研修を年1回以上実施し、参加率100%を目指す。また、プレコンセプションケア教育（妊娠前教育）についての研修を実施する。	A		
	安心・安全な学校生活	清掃・美化活動の充実・日常安全点検	校内美化に対する意識を高め、快適な学習環境作りに努める。また、環境衛生の観点から日常の安全点検を行う。	A	A	

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題
特色推進部	地域に開かれた学校づくり	広報活動の充実	理数探究科及び普通科の教育内容等の情報や魅力、本校の特徴的な取組等を中学生・保護者・中学教員向けに効果的に提供し、両学科ともに倍率1.0を超えるために高校説明会や学校公開等の機会を活用する。	A	A	【成果】 ・合同説明会のパワーポイント資料や学校紹介動画、西高だよりを通じて、本校の魅力を伝えることができた。 ・中学生対象の進路希望調査(11月)では、普通科は倍率2.35倍、理数探究科は0.80倍となっている。 ・「はばたき」(総合的な探究の時間)を、市役所や地域の方、京都府立大学と連携しながら展開することができた。 ・今年度の芸術鑑賞も生徒から高評価を得られ、文化祭に向けた活動と連動させることができた。 ・図書委員活動では、他校生とオンラインでの交流を3回実施することができた。また「読書の時間」を計10日間実施することができた。
			学校生活における生徒の生き生きとした姿や活躍、学校教育の成果を迅速に伝えるために年200回以上のホームページ更新や年5回以上の広報紙等発行を行う。また、地域の新聞社など情報機関と連携した広報を行っていく。	A		
	新たな価値観を見だし、未来を展望する力を育む	図書館にある本を1冊も借りていない生徒の割合が卒業時に20%を下回るようにするため、図書委員会活動や各教科との連携等を通じて生徒に図書館の利用を促し、読書活動や探究活動を支援する。その際には、電子書籍も含めて活用する。また、芸術鑑賞会など、生徒の心を豊かにする活動を展開する。	B			
		「はばたき(総合的な探究の時間)」の企画・立案	学年部と協力して普通科の「はばたき(総合的な探究の時間)」の企画・立案を行い、多様な学習活動の実践や地域との連携により「主体的・対話的で深い学び」を実現する。また、学びの共有や深化を図るため、中間発表・最終発表を各学年で実施する。	B		【課題】 ・ホームページの更新数は192回(1月23日段階)である。年間目標は達成できるが、より西高の魅力や特徴を伝えていくため、多くの先生方に関わっていただくこと、何気ない日常の風景や授業の様子などを発信していくことが大切である。 ・探究活動をより良いものにしていくため、教員にはファシリテーターの役割が求められている。生成AIやネット情報のみにならないよう、指導・声掛けを行っていく必要がある。また、教員間での情報交換や連絡を密にするとともに、様々なイベント・企画を生徒に紹介し、生徒が体験を積み重ねていけるよう学年部との協力がより一層求められる。
理数探究科	先進的な理数教育	探究活動、科学体験活動の充実と指導力の向上	教科会議等で探究活動の事例の交流を10回以上行うことで、探究的な学習を伴う授業事例を教員間で共有する機会を設ける。また、スーパーサイエンスネットワーク(SSN)京都事業をはじめとした他校連携も視野に入れ、生徒間での学びが創発される活動や教員による評価方法の研究を行う。	B	A	【成果】 ・校外での発表の機会は20回であった。生徒が主体となって活動に向かうことができる環境を整えたい。 ・高大連携講座や発表会の実施回数は11回であった。連携先との調整や生徒の振り返りの機会を十分に設け、より良い活動としたい。 【課題】 ・科学的な探究手法の習得を超えて、自己実現や自己理解、社会とのつながりを意識した活動を増やしていく必要がある。 ・科学の甲子園、水産学会、情報学研究コンテストに挑戦した。より多くの生徒が主体的に取り組める意識づくりと環境づくりを推進していきたい。
		学校外の発表会参加や発信活動の推進	校外での発表や発信活動を通して、体験・研究活動を異分野を専門とする他者に伝える機会を10回以上設けることで、生徒による活動の省察や研究の発展を促すと同時に、各種科学コンテストの情報を効果的に発信し、自主的に科学を学ぶ生徒を育成する。	A		
	希望進路の実現	高大連携の推進	京都工芸繊維大学、福知山公立大学、京都大学フィールド科学教育研究センターなどの連携大学との協力体制を深め、延べ10回以上の高大連携を行いながら、実施方法や評価方法の工夫を重ねる。	A		
		受験指導力の向上	分掌間・教科間連携により、学校全体で取り組む授業力・教科指導力の向上に様々な形で貢献する。	B		
人権教育	人権学習	多様性と調和性を大切にする人権尊重の態度を育み、さまざまな人権問題について正しい認識と問題解決のための行動力を培う。	学年部や各分掌と連携し系統的・計画的に人権学習を推進する。	B	B	【成果】 ・人権講演会では、各テーマや立場・社会問題を理解し、多角的な視点に立って各人権問題について十分に思考された。 ・51年目と長い歴史をもつ中舞鶴保幼小中高連絡会では、他校種交流が向上した。提言コンテストでは参観校が前年比1校増となり、計6名の教職員をお招きした。 ・府高人研では、本校での人権教育に関する取組について夏季に研究発表を行い、この取組に対する評価をいただき、秋季の府人教主催の研究発表会に進出し、他校種の教員に取組を共有する機会を得た。 【課題】 ・講演会のテーマや講師に対する教員の意識にばらつきがみられる。社会情勢に合わせた講師の調整を検討する一方で、教職員の人権問題に対する地理的・歴史的な基礎知識力向上を図る必要がある。 ・各種奨学金の案内が依然多くかつ煩雑であるなか、今後増加するであろうニーズに対して、業務面や個人情報保護の観点から担当者の整理を実施する必要がある。 ・いじめ関連事象が数件認知された。認知力の向上に関しては一定の成果があるが、引き続き、被害生徒・加害生徒に対する対応等を全校体制で共有する必要がある。
			時代のニーズに応じた学習教材・講演会・内容を研究・検討し、手法の工夫・改善に取り組む。	C		
			講演会とは別にLHRや地歴公民科の授業を活用した人権学習の時間を各学年、年に最低1回はおこない、人権意識の高揚を目指す。	B		
			人権課題の解決の主体としての行動力・実践力を育てる学習を展開する。	B		
	連携	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	学年部・生徒指導部・保健部等と連携し、いじめの防止や困難な条件を持つ生徒の把握・援助に努め、進路保障を図る。	B		
			中舞鶴保幼小中高連絡会等との地域連携を一層深め、就修学の保障に努める。	B		
研修・研究	全ての教育活動を通じて人権教育に取り組む観点から、人権感覚を日常的に育む。	全教職員が人権教育に対する認識を深め、人権意識の高揚を図る。	C			
		府高人研主催の課題別研究交流会など研修会等に積極的に参加し、様々な人権課題に対する実践的考察や手法等を身につける。	B			
		人権教育全体計画に従って、各教科の授業や取組において人権の視点を踏まえた指導を考察し、展開する。	B			
第1学年部	学習指導	学習習慣の確立	10月の到達度テストの学習習慣アンケートにおいて、平日の学習時間を4月より20%増やす。	C	B	【成果】 ・学年集会や学年レク等を行うことで集団に横のつながりができ、クラスの枠を超えて交流を深めることができた。 ・特別指導がないなど、比較的落ち着いた学校生活をすごせた。 ・オーストラリアからの留学生との交流では、多くの生徒が積極的に行動できた。 【課題】 ・学習を苦手とする生徒に対して定期考査前に学習会等を行ったが、結果をみるかぎり不十分であり、より適切な支援を行っていきたい。 ・指示待ちではなく、自ら考えて行動する生徒を育てることができなかった。
		成績上位層の育成	1月の進研模試において、英数国の偏差値が60以上の生徒を30人以上にする。	C		
	生徒指導	人間力の向上	学校行事や部活動、ボランティア活動に積極的に取り組めるよう支援を行い、学校祭アンケートで満足度90%以上を目指す。	A		
			保護者連携	信頼関係の構築		

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題
第2学年部	学習指導	希望進路実現に対する意識を高め、学力の向上を目指し、学習習慣の定着を図る	学力の向上を目指し、授業にしっかりと臨ませるとともに、1日2時間以上の家庭学習時間を確保させ、学習習慣の定着率が80%以上となるよう意識を高めさせる。	C	B	【成果】 ・希望進路の実現に向けて、面談等を通して模試や進路行事に対する意識の高揚に努め、学力を伸長させるとともに、家庭学習の習慣を身につけさせることができた。 ・文化祭の演劇や修学旅行等を通して、クラスや学年としての団結力を高めることができた。学校行事に対する満足度は大変高いものであった。 ・月に一度「2年通信」を発行し、保護者に様々な情報提供をすることができた。 【課題】 ・学習に対する意識の格差を完全に解消することはできなかった。希望進路の実現に向けて、学年全体の意識を高めさせたい。 ・来年度は、挨拶や環境美化への意識をより一層高めさせたい。
			進路指導部と連携し、進路選択に関わる情報提供を効果的に行うとともに、面談を適切に行い、希望進路実現に対する意識を喚起し、模擬試験の偏差値55以上の生徒数の増加を図る。	B		
	生徒指導	基本的生活習慣を定着させるとともに、学校生活を通して社会に生きる一員としての意識を育む	「西高生」として自覚を持ち、挨拶・身だしなみ・環境美化及び規則の遵守を大切にすることを育成する。無断欠席・無断遅刻を0とする。	C	B	
			学校祭、修学旅行等の行事を通して、仲間とのよりよい関係を構築する姿勢を育成する。何事にも主体的・積極的に取り組むよう促し、学校行事について満足度が90%以上となることを目指す。	A		
	保護者との連携	保護者との連携し、信頼関係の構築を図る	月1回を目処に「学年通信」を発行し、生徒はもとより、保護者等に向けて、学校生活の様子や行事予定、進路情報などについて発信し、情報を共有できるように努める。	A	B	
			保護者との連絡を密にし、三者面談もじっくり丁寧に行い、信頼関係を構築するように努め、保護者アンケートの満足度90%以上を目指す。	C		
第3学年部	進路指導	希望進路の実現に努める。	進路指導部や教科担当者と連携を密にするとともに、何度も面談を行うことで国公立大学合格者数を60名以上にする。	B	B	【成果】 ・進路指導部をはじめいろいろな分掌と連携を密にして、効率よく各取り組みを行うことができた。 ・部活動や各行事に生徒が全力で取り組めるように支援を行うことができた。 ・生徒の生活規範や規律については、以前の状況よりは改善された。 【課題】 ・総合型選抜や学校推薦型選抜での結果が思うように振るわなかった。結果を総括し、分析することで傾向と対策を練り上げ、次年度に繋げていきたい。 ・欠席過多の生徒への指導や対応について大変苦慮した。状況を共有することで、それを今後の欠席過多生徒への指導・対応に活かしたい。
			早期からの計画的な小論文、面接指導を行い、総合型選抜、学校推薦型選抜での合格率65%以上を目指す。	C		
	生徒指導	社会に出て通用する規範意識の涵養を図る。 高校生活最後となる年の部活動や行事の取組を充実させる。	こまめな指導を行い、校則や情報モラルなどの生活規範を遵守する態度を身につけさせる。1年間を通じて生徒指導件数0を目指す。	B	B	
			部活動や学校祭等の行事に生徒たちが力を合わせ、全力で取り組めるように支援を行い、学校評価アンケート生徒の満足度80%以上を目指す。	A		
	保護者連携	保護者との継続的な連携を図り、よりよい信頼関係を構築する。	保護者と継続して丁寧な情報交流を行い、一丸となって生徒の学校生活をサポートする。それによって保護者との信頼関係を構築していく。学校評価アンケート保護者の満足度80%以上を目指す。	B	B	
	事務部	教育環境の整備	生徒及び教職員が安全・安心な学校生活を送れるような教育環境を確保する	校舎・施設等の適正な維持管理に努める。また、月に1回程度事務部で施設点検を実施する。さらに他の教職員とも情報共有し、危険箇所の早期発見及び早期対応、修繕計画の作成を行う。	B	
学校の特色化を進める設備・備品の充実			探究活動や理数教育等特色ある教育活動を進めるため、各分掌と連携をとりながら効果的な予算執行に努める。	A		
選ばれる学校づくり		広報活動の充実	広報活動を充実させるための予算の確保する。	A	B	
修・就学支援		生徒の修・就学支援の充実	保護者等・生徒に対する十分な案内周知と丁寧な対応を行い、就学支援金や各種奨学金事務を円滑に実施する。	A	A	
会計管理		適切な会計事務の執行	会計事務研修に参加するなどし会計事務に関する知識を深め、給与、旅費及び会計事務等の適正な処理に努める。事務遅延が生じないように主担当・副担当を中心に職員相互の進捗状況のチェックを行う。	B	B	
学校関係者評価委員会による評価		生徒が生き生きと活動していることはよくわかるが、さらに地域や中学生にアピールする必要がある。保護者等にも学校理解を深めてもらうためのさらなる広報活動のあり方の検討をすすめる。地域の企業からもキャリア教育がしっかりできており、様々な力を伸ばし、成長させて送りだしている様子がわかる。挨拶の重要性など中学校との連携の中で進めていく。主体的な学びを推進するために図書館の利用促進も進める。高校生徒して地域に貢献する態度を育て、希望進路を実現していく取組を充実させる。				
次年度に向けた改善の方向性		卒業生の活躍を含め、保護者や中学生、地域に対しての広報活動をさらに充実させる。探究活動や地域での活動をさらに推進し、生徒が自分について見つめなおし自己肯定感を高め、将来を見通せる力を育成する。				

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果が得られた） B：ほぼ達成できている（ほぼ目標通りの成果が得られた） C：達成できているとはいえない（成果はあったが、目標に達していない） D：ほとんど達成できていない（ほとんど成果がなかった）